

報 恩 寺 だ よ り

昭和54年7月15日

神奈川県綾瀬市寺尾889

おたすけ観音 報 恩 寺

電話0467-78-7160

◎ お施餓鬼会勤修について

例年のとおり大施餓鬼会を勤修いたします。特に新盆（昭和53年7月～昭和54年7月におなくなりになられた方）の御施主様は御参詣下さい。

※8月7日（火曜日）午後0時30分 御詠歌

午後1時 法話 山田拙成老師

午後2時 大施餓鬼会

※つけ施餓鬼回向料（搭婆代）2,000円、御希望の方は7月25日までに担当の世話人さん、又は当山へお申し込み下さい。ご参考までに年回早見表は下記のとおりです。

回忌	1	3	7	13	17	23	27	33	50	100
年	昭和 53	昭和 52	昭和 48	昭和 42	昭和 38	昭和 32	昭和 28	昭和 22	昭和 5	明治 13

◎ 永平寺二祖国師七百回大遠忌について

永平寺の二世、懷装さまの七百回忌の大遠忌が、明年4月1日から9月30日まで行われます。懷装さまは、わが宗門では敬って二祖国師と申し上げます。二祖様は開祖道元禪師が唐から帰って来られ、宇治の興聖寺に居られる時にお弟子になり、宇治で約十年、永平寺で約十年、都合二十年の間道元禪師のおそばを離れず、お教えを受けられました。二祖様は道元禪師より二つ年上でした。道元禪師が54歳の夏、病気が進まれますと、二祖様を永平寺の二世に任ぜられました。そして禪師は数日後に京都に上られました。

道元禪師は畏くも時の土御門天皇の叔父君に当られる高貴な方で、宮中から待医を給ったとも言われます。京都へつかれた禪師は二十日後にお隠れになりました。二祖様は道元禪師がお亡くなりになられた後、そのお墓のお側に草庵を作られ、御生前と変ることなく、お仕へすること二十七年、二祖様が八十三

歳でお亡くなりになられるまで、道元禪師の生前没後五十年間只一筋にお仕えなされました。この一筋の慈悲、孝順心を頂いて今日の曹洞宗のゆるぎない正法興隆があります。

二祖様の五十年に一度の、又私達一世一度のこの勝れた御縁に、皆様お誘い合せのうえ、一人でも多く参拝し、二祖様が身を以って示された孝順心の教えを生活の中に生かし、みんなの幸せを求めていこうではありませんか。

参拝の要項は、綾瀬、海老名、大和の寺院様の集りで決定しだいお知らせ致しますので、御参加下さい。又この大遠忌の御香志を世話人様を通じて御願いたいと存じますので、その節には応分の御志納をお願いいたします。

二祖様のお亡くなりになられたのは弘安3年（1,280）ですが、弘安4年は元冠で、蒙古の大軍が押しよせた年であり、3年前、建治3年（1,277）には、寺尾を領していた渋谷重国の孫の子、重経が寺尾を三つに分けて、子供と孫娘等に譲った古文書が入来文書の中にあり、入来文書の中に「法音寺」の記載のあるのは嘉暦4年（1,329）です。

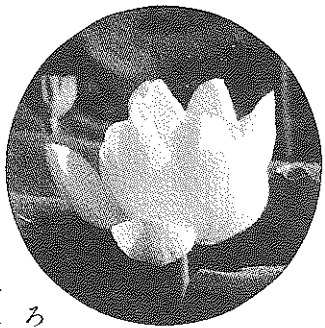
◎ 特別御寄進

特別御寄進を被露申し上げて、各位の御芳志に感謝すると共に、供養菩提の御冥福をお祈りいたします。

特別寄進

抄録

太鼓



おおらかな心の世界——うらぼんえ

曹洞宗

ことしの一月二十四日の朝刊に、「太安萬侶の墓発見」と大きく出ているのを見て、瞬間とまどったが、古事記の撰者おのおのやすまろ、という説明に記憶がよみがえった。研究上の発掘でなく、茶畑の手入れをしていた農家のご主人がたまたま掘りあてたものであるから、何かうれしい気持がする。千二百年前の人が、急に浮世の風が吸いたくなって姿を現わしたような思いがするからである。

この報に、全国にちらばっている子孫が一堂に会して、先祖を追慕し、血縁をあたためようという相談がおこっていると聞く。まことに歴史には断絶が無い。

*

私達も、先祖や亡き肉親と一緒に語り合う機会を年に一度持っている。盂蘭盆会（うらぼんえ）がそれである。ご精霊たちは、子孫のところ、懐かしい我が家に帰ってきて、共にご馳走をたべ、心の交歓をして、やがて冥界にもどられる。うらぼんえは、おおらかな心の世界である。理屈も何もない無邪気な素朴な心がこの行事を生み出したものであろう。童話の世界、民話の世界といつてよい。しかし、なんとこのうらおいの大切なことか。

*

九十二翁の法事に招かれたことがある。翁が生前に書いた色紙を拝見した。

冬至とうじの日落ち終わるまで見つめけり

という句である。冬至は十二月二十二、三日ごろであるが、太陽が最も南に寄り、昼が短かく、夜の長い日である。一つ確かめてやろうと、西に沈むまでジッと見ている姿がほほえましい。俳句や短歌をやる人は、日常なんでもない事に無限な趣きを発見して楽しむ。せかせか追いまくられている人生が、とたんに腰の坐った味わい深い世界に転ずる。

それにしても思うのは、相つぐ子どもの自殺である。過保護からくる我がまま、我慢の無さ、連鎖反応、短絡などといってしまうばそれまでであるが、何んとしてもいたましい。学歴社会といわれる風潮に乗り遅れぬように勉強、勉強という親の阿タマもかえなければなるまい。加えてマスコミによる情報はんらんで、子どもは驚くほどわけし訳知りとなり、人生を割り切って考えるようになる。人生を割り切ってしまうば、人間誰しも通過するコースだけになり、つまらなくなるのは当然である。

*

そこで、一つ提言する。子どもに、ハダで味わう年中行事のお祭りやお祝いの体験を与えよ。おひな様をいそいそと飾ってくれた母親の姿、王朝風の衣裳をまとった内裏様と遊んだ楽しさは一生忘れまい。ひとりで生きていない人間のツナガリ、人間のいとなみの奥深さを無意識のうちに感じとるであろう。盂蘭盆会を迎えて、それを思うことしきりである。

私たちの 曹洞宗

曹洞宗では釈迦牟尼仏（お釈迦さま）をご本尊と仰ぎ、そのみ教えを正しく日本に伝えられた道元禪師さまと、み教えをわが国に弘められた瑩山禪師さまを両祖大師（人生の導師）としてお慕い申しあげます。

道元禪師さまの開かれた福井県の永平寺と、瑩山禪師さまの開かれた横浜市の総持寺を、両大本山と申し上げ、全国一万五千のお寺、八百万人の檀信徒の心よりどころといたします。

曹洞宗は、坐禅をすることを生命とし、これにより私たちが生まれながらもっている仏心にめざめ、充実した毎日、悔いのない人生をすすすためのものです。